

令和8年度
東門前3丁目町内会
防災まちづくり

防 災 講 座

—地震編—

地域のリスクを知り、避難を考える

地震・建物倒壊

川崎市直下型地震を想定



火災延焼

延焼クラスターに指定



津波

浸水想定区域あり



正しく知って、安心して暮らすために
それぞれのリスクを一緒に確認し、対応について考えましょう



720名が犠牲

(うち災害関連死492名)

出典：内閣府（令和8年3月31日時点）

焼失棟数 約240棟

出典：総務省消防庁

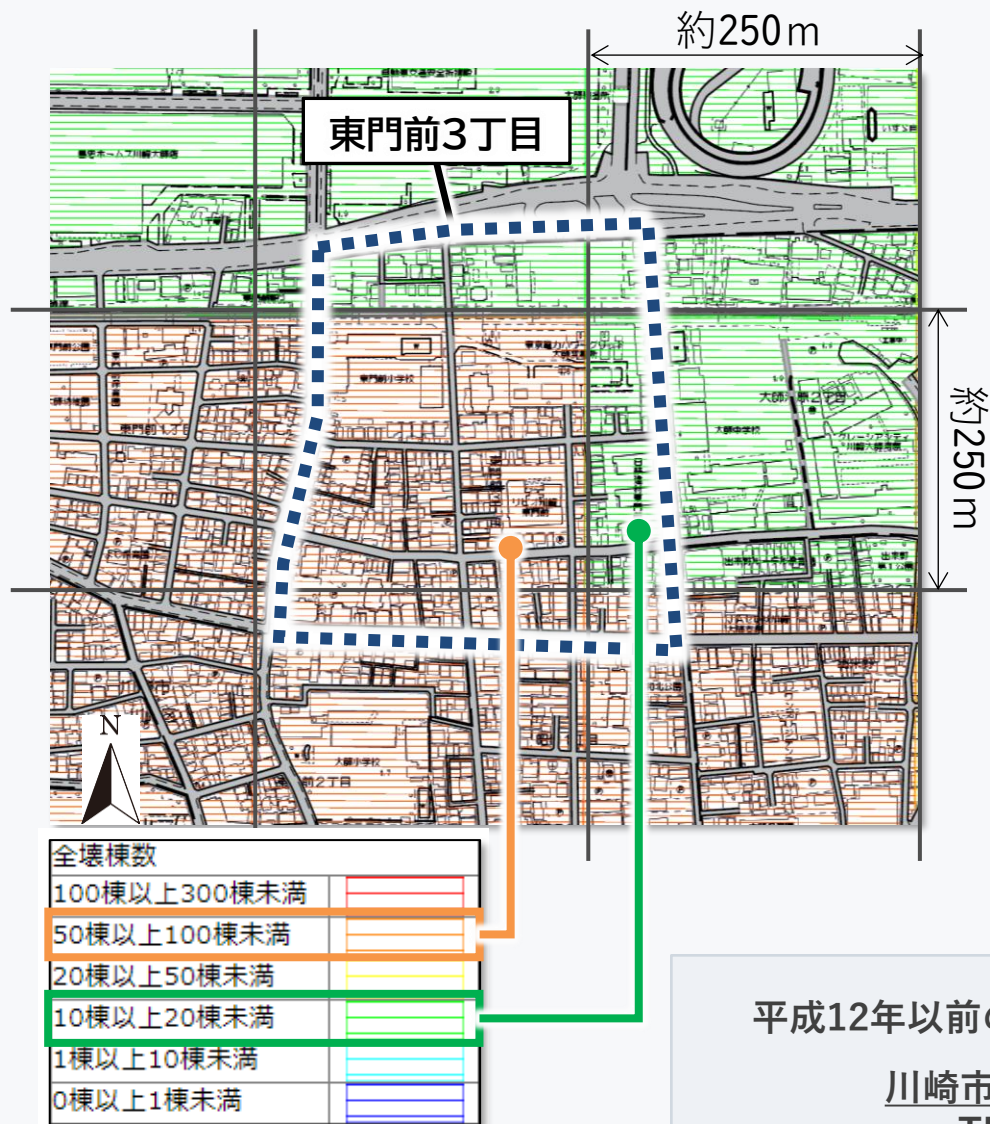
「第3回輪島市大規模火災を踏まえた
消防防災対策のあり方に関する検討会 資料より」

大規模火災になった理由

- ▶ 木造の古い建物が密集していた
- ▶ 消防車が狭い路地に入れなかった
- ▶ 断水・防火水槽損壊で消火困難 など

東門前3丁目にも共通する条件があります → 次ページ以降へ

① 地震 – 川崎市直下型地震 – 東門前3丁目の建物倒壊リスク



出典：かわさきハザードマップ

川崎区の想定被害

最大震度	6弱
全壊棟数	6,543棟
焼失棟数	3,987棟
死者数	235名

出典：H24川崎市地震被害想定

東門前3丁目の場合

250m四方の区画内で
50～100棟の全壊が想定

→近所の家が倒れると
逃げ道が塞がれる危険も

平成12年以前の木造住宅は無料耐震診断を！

川崎市防災まちづくり推進課

TEL: 044-200-3017



木造住宅耐震診断士
派遣制度

① 地震 – 川崎市直下型地震 – 揺れが起きたときの避難行動

図引用：「備える。かわさき」



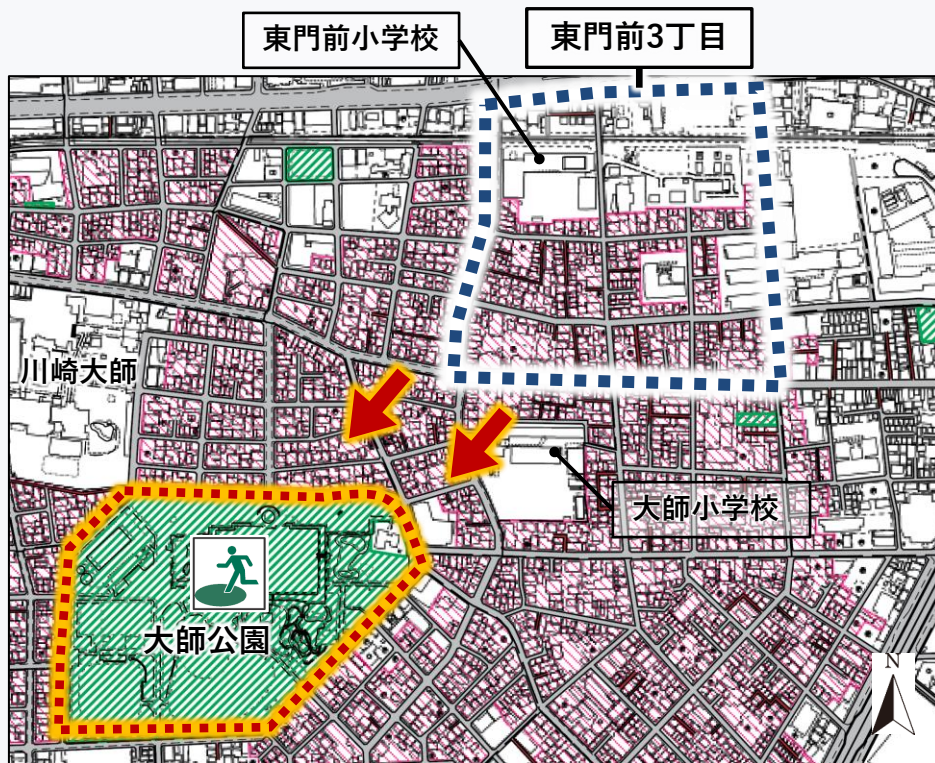
揺れが起これば、
情報収集・ご近隣の助け合いを兼ねて、**まずは一時避難場所へ！**

用語解説：一時避難場所

地域住民等が震災（建物の倒壊・火災延焼の拡大、危険物の流出・漏えい、津波など）から身の安全を図るため、一時的に避難する場所（公園・空き地・防災農地・協定等により確保した場所など）

② 火災

延焼クラスターと大規模延焼のリスク



用語解説：延焼クラスター

図中のピンク色で塗られているエリアで火災が発生した場合に、周辺の建物に次々と延焼し、広い範囲での焼失被害を招く恐れのある集まりのこと

延焼シミュレーション動画

出火から数時間で町内全域に広がる可能性を動画で確認（→動画再生）

個人でできる対策

- ▶ 消火器を家庭に備える
- ▶ 感震ブレーカーの設置（数千円～）
- ▶ 避難先までの経路を確認しておく



「通電火災」に注意

地震火災の原因の**5割以上が電気**由来。停電復旧時に損傷した配線等から出火する「通電火災」は、無人の部屋で発生すれば延焼拡大の危険があります。

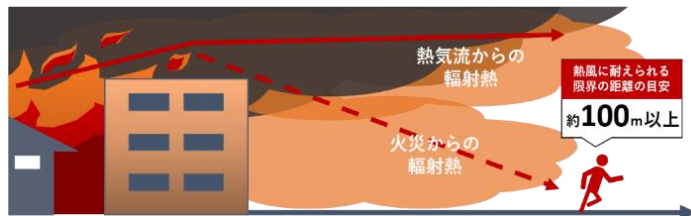
- 感震ブレーカーの設置！
- 避難時は必ずブレーカーを切る！

② 火災

火災の際の避難行動

✓ 大規模火災が発生したら

「火元から離れる」が基本
(火源から100m以上の距離を確保)



✓ 火元から距離が取れる場所



広域避難場所

大師公園

延焼クラスターの範囲外など

広範囲の図



用語解説：広域避難場所

震災やその二次災害（延焼火災など）により、広域にわたって大きな被害が予測される場合に、命を守るために避難する場所。



出火元や風向によって避難先は変わります。そのため大師公園に限らず、火元から距離がとれる場所を確認しておきましょう（左の図を参照）。

③ 津波

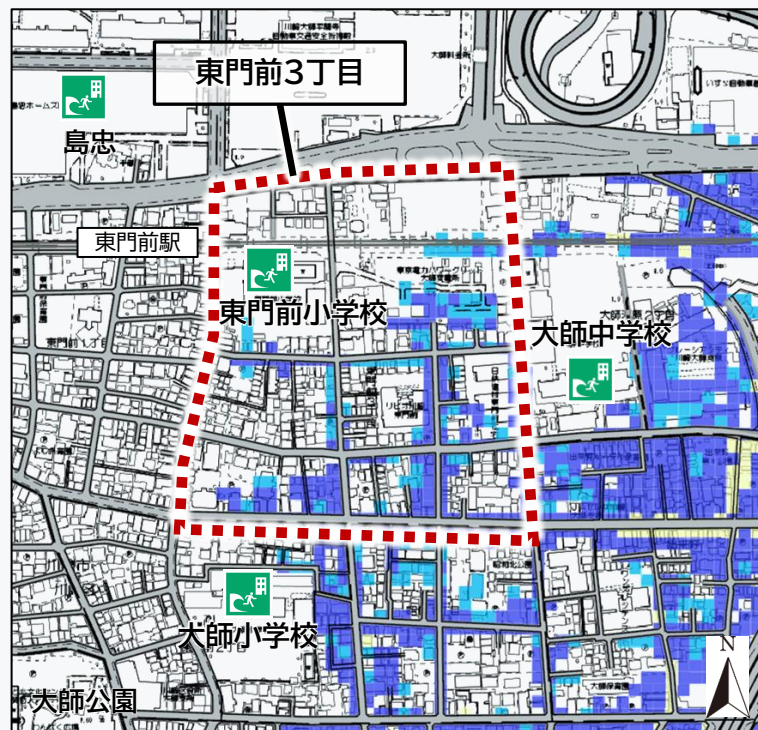
津波の浸水リスク



川崎市津波ハザードマップ
令和3年3月更新版

川崎市の防災対策上の想定

慶長型地震（海底震源）を基準に想定



東門前3丁目の一部が
浸水：
0~50cm
(床下~1階床上)

※地震発生から津波到達
まで約80分が想定

慶長型地震津波の基礎知識

- 想定地震：慶長型地震
- 川崎港の最大津波高：約**3.71m**（満潮時）
- 到達：地震から約**80~90分**後
- 川崎区の浸水範囲：区面積の約45%（約18.3km²）

⚠ 揺れが小さくても大津波が来ることがあります！

③ 津波

津波の際の避難行動



津波注意報が発表されたら

直ちに海や川から離れる！



津波警報や大津波警報・津波注意報が発表されたら

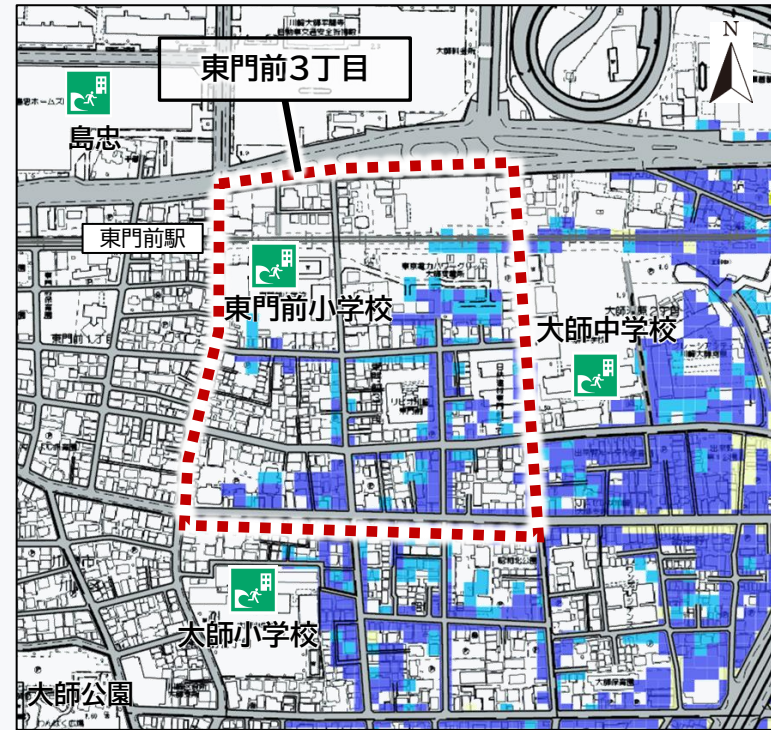


近くの「津波避難施設」

東門前小・大師小・大師中・島忠
(すべて3階以上)

堅牢な建物（鉄筋コンクリート造など）の3階以上

津波浸水想定区域外



用語解説：津波避難施設

東京湾内に大津波警報・津波警報が発表された場合に、津波から身の安全を図るために一時的に避難する場所

用語解説：津波避難場所

東京湾内に大津波警報・津波警報が発表された場合に、津波から身の安全を図るために一時的に避難する場所

川崎区内にある津波浸水予測区域外の広域避難場所
(大師公園、小田公園、川崎競馬場、川崎競輪場、川崎富士見球場)

津波避難のポイント

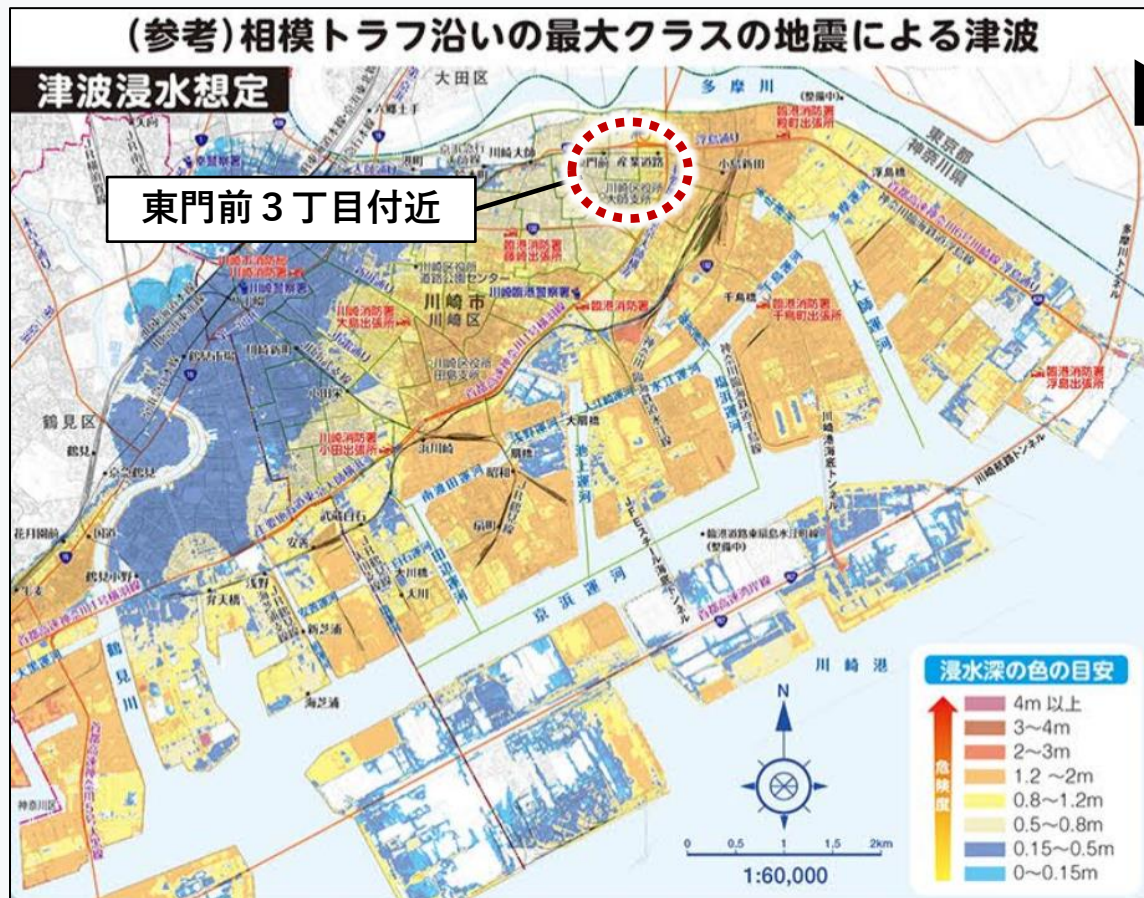
- ✓ 原則、車は使わずに徒歩で避難
- ✓ 大声で周囲に声をかけながら逃げる
- ✓ 津波警報や大津波警報・津波注意報が解除されるまで元の場所には引き返さない。

③ 津波

津波浸水リスクの参考情報

参考

相模トラフの巨大地震が起きた場合



川崎市津波ハザードマップに、
参考情報として掲載されています。

- ・ 発生間隔：2千年から3千年
もしくはそれ以上
- ・ 川崎市内で最大**2.9m**の津波
が想定される（ただし地盤が
訳1 m沈降することを前提と
しているため、浸水面積は拡
大する）
- ・ 東門前地区全域が浸水エリア
に含まれる可能性

【まとめ】3つのリスクと、もう一つ知っておきたいこと

① 地震



- ・川崎直下型地震で周辺50～100棟が全壊想定
- ・耐震化・家具固定を

② 火災



- ・南側が延焼クラスターに指定
- ・木造密集で延焼拡大
- ・消火器の備え、感震ブレーカー設置を
- ・大規模火災時は大師公園へ避難

③ 津波

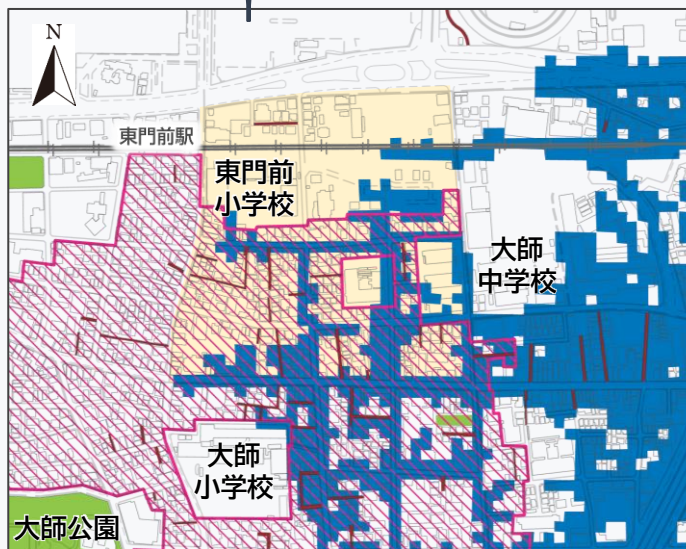


- ・床下～床上浸水(0～50cm)
- ・避難先への経路を確認
- ・津波警報が出たら津波避難施設等へ避難

これらが同時に起きる「複合災害」について

❗ 複合災害リスク (右図参照)

- ◆ 延焼クラスター (ピンク) と津波浸水予想 (青) が重なるエリア
- ◆ 地震後に火災・津波が同時進行する可能性を意味します
- ◆ 細い路地 (赤い線) が多いので避難経路の確認が大事です



凡 例

延焼クラスター

津波浸水予想
(慶長型地震)

出典：川崎市津波ハザードマップ
(浸水範囲のみ表示)

幅員4m未満道路

出典：令和2年度都市計画基礎調査

公園

④ 避難生活 リスクが去った後の避難生活

揺れや火災や津波のリスクが去った後は以下の場所で過ごすことになります。

 自宅が安全



自宅

ご自宅が無事な場合は在宅避難が基本です

在宅避難の主な備え

- ✓ 食料・飲料水を最低7日分備蓄
- ✓ 断水に備えた携帯トイレを準備
- ✓ 薬・常備品を7日以上用意する
- ✓ 防災ラジオ等で情報を収集する
- ✓ モバイルバッテリーで通信手段を確保
- ✓ 近隣・地域での助け合いを心がける

▶ 詳しくは右の

「在宅版 備える。かわさき」で確認を！

 建物倒壊・倒壊の恐れあり

または

 家屋焼失



指定避難所

東門前小学校

用語解説：指定避難所

家屋の倒壊や焼失などで自宅で生活できなくなった川崎市民が、一定期間避難生活を送る場所

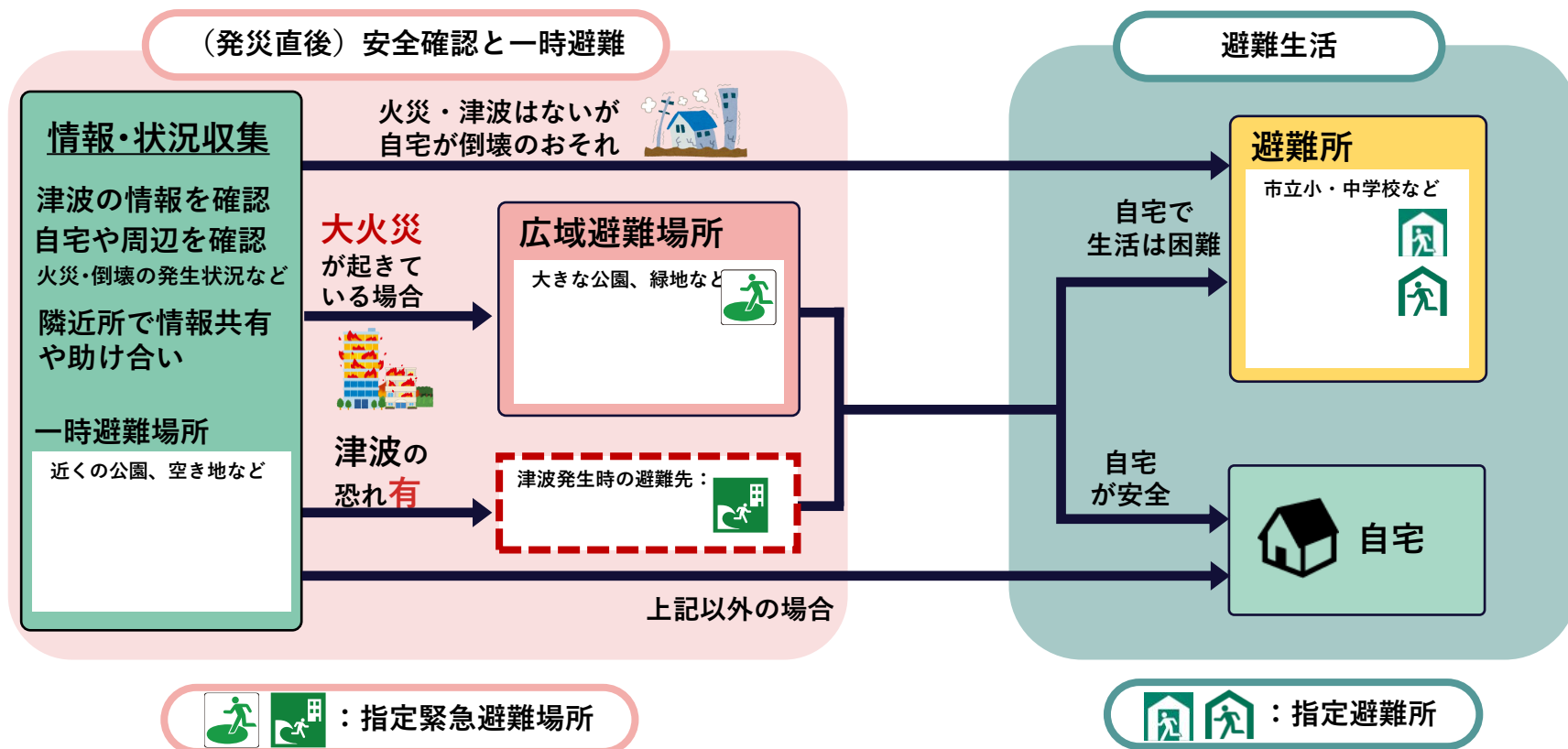


在宅版「備える。かわさき」

- ✓ 在宅避難に必要な情報を掲載した川崎市の防災冊子
- ✓ 各区役所・支所で配布中
- ✓ 右のQRコードからもご覧いただけます



【補足】災害発生後の避難の2段階



用語解説：指定緊急避難場所

切迫した災害の危険から一時的に逃れるための
場所で、災害の種類ごとに定める場所や施設
(市内の市立小中学校等や広域避難場所の中
から指定)

用語解説：指定避難所

家屋の倒壊や焼失などで自宅で生活できな
くなった川崎市民が、一定期間避難生活を送る場
所
(市内の市立小中学校、市立高等学校等)

地震版マイ・タイムライン シート(表面)

東門前3丁目

地震版マイ・タイムライン【個人・家族】

自宅用

作成日 年 月 日

経過時間

日頃の備え

地震発生

危険から命を守る段階

ある程度危険が落ち着いた段階

災害が起きる前に準備しましょう

☐マイタイムラインを作成する
 ☐家具の転倒・落下防止対策をする
 ☐災害用伝言ダイヤル171を試す
 ☐自宅の耐震性を確認しておく
 ☐地震保険に加入しておく
 ☐防災備蓄品をそろえる

☐
☐
☐
☐
☐
☐
☐
☐
☐
☐

まずは自分の身を守ります

・頭を守り動かない
 ・丈夫な机の下に避難
 ・倒れてくるものに注意

ひとまず揺れが落ち着いたら

☐コンロやストーブなど火の始末
 ☐ドア、窓を開けて逃げ道確保
 ☐防災グッズを取り出す
 ☐初期消火

☐
☐
☐
☐
☐
☐
☐
☐
☐
☐

(発災直後) 安全確認と一時避難

情報・状況収集

津波の情報確認

自宅や周辺を確認

☐建物が倒れたり傾いたりしていないか
 ☐火事はないか

隣近所で助け合い

☐安否確認
 ☐初期消火
 ☐避難支援

一時避難場所

近くの公園、空き地など

火災・津波はないが自宅が倒壊のおそれがある場合

広域避難場所

大きな公園、緑地など

避難する前に
ブレーカーを落として戸締りを

津波の恐れ有

津波発生時の避難先：

警報や注意報が
解除されるまで戻らない

上記以外の場合

避難生活

避難所

市立小・中学校など

親戚や知人宅等への避難も
視野に入れておきましょう。

自宅生活は困難

自宅が安全

☐災害用伝言ダイヤル等で
家族に無事を伝える。
☐家族の集合場所へ。

マイタイムライン

私と家族の行動

1 家族の日中や夜間の居場所を書いておきましょう

いつ	家族氏名	家族がいる場所	連絡先	家族がいる場所の災害リスク	家族の集合場所第1候補	集合場所までの距離と時間(徒歩)	集合場所までの災害リスク	備考・必需品など
昼間						km 時間		
夜間						km 時間		

2 家族の集合場所と約束事

自宅や職場が倒壊・焼失した場合を考慮して、家族の集合場所・時間を予め決めておきましょう

候補1	
候補2	
時間	
約束	

3 我が家の防災用品を確認しましょう

	非常持出品	在宅避難のための備蓄
食料	☐ 飲料水 ☐ 携行食・非常食	☐ 食料 (1日3食×家族の人数×7日分) ☐ 食べ物 (お米や乾麺、缶詰など1日持ちするもの7日分)
医療・衛生	☐ 服用薬 ☐ 救急医薬品 ☐ 生理用品 ☐ 歯ブラシ ☐ 経ケア用品 ☐ 携帯トイレ	☐ 簡易トイレ・トイレ用凝固剤・汚物処理袋 ☐ トイレットペーパー
貴重品	☐ 現金 ☐ 印鑑 ☐ 健康保険証・預金通帳 (コピー可)	☐ カセットコンロ・ボンベ ☐ 簡易食器 (紙皿・スプーンなど) ☐ アルミホイル ☐ 食品用ラップなど
安全対策	☐ ヘルメット・防災ずきん ☐ 厚底の靴 ☐ 軍手	☐ 調理器具
衣類	☐ 防寒着 ☐ 下着・靴下 ☐ 携帯着レインコート	☐ 新聞紙・ビニール袋 ☐ 寝袋 ☐ 衣類 ☐ ドライシャンプー
道具類	☐ 携帯電話・充電器 ☐ 携帯ラジオ ☐ 懐中電灯 ☐ 電池 ☐ 時計 ☐ 携帯カイロ ☐ ライター・マッチ ☐ ナイフ ☐ 缶切り ☐ 入れ歯・眼鏡	☐ 生活用品
生活用品	☐ ウェットティッシュ ☐ タオル ☐ ごみ袋	☐ その他
感染症対策	☐ 体温計 ☐ アルコール消毒液 ☐ マスク	
その他	☐	

4 無事を伝える伝言ダイヤルなどを活用しましょう

災害用伝言ダイヤル「171」や災害用伝言板「web171」は、災害時の安全確認に有効な方法です。もしもの時に備え、利用方法を家族で確認しておきましょう。

災害用伝言ダイヤル (171)	災害用伝言板 (web171)
【録音方法】 ①⑦①に電話 ③を押す 自分の電話番号を押す ①を押して録音	【再生方法】 ①⑦①に電話 ②を押す 家族等の電話番号を押す ①を押して伝言を再生

「web171」と検索または二次元コードを読み込みアクセスしてください。インターネットで伝言を登録、確認することができます。

伝言を残す電話番号を事前に決めておき、家族・友人等に予め共有しておく、伝言を確実に伝えることができます。

地震発生時に自分がとるべき行動を事前にチェックするシート。
日頃から記入・見直しをしておきましょう。

地震版マイ避難ルート（裏面）

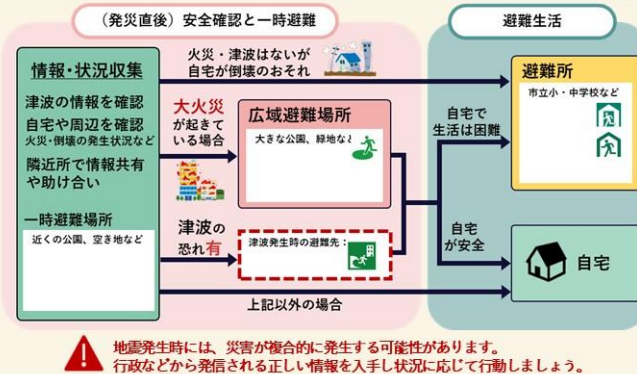
東門前3丁目

地震版マイ避難ルート

自宅用

1 マップに自宅の★印をつけましょう

2 大地震の場合の避難の流れを確認しましょう



3 マップに避難ルートを書きましょう

災害状況に合わせた避難先ごとに、避難ルートを右のマップに書き込みましょう。

安全な避難のポイント

- ★狭い道は塀や家屋などが崩れて通れない場合があります。
幅員4m未満道路（マップの 部）などの狭い道はなるべく通らないルートを考えてみましょう。
- ★火災時は、安全な道に迂回するか、安全に行ける広域避難場所へ避難しましょう。

それぞれのルートの所要時間や、気をつけたことを下の空欄に書きとめておきましょう。

広域避難場所までのルート ～周辺の火災が広がるおそれがある場合～

大きな公園、緑地など 所要時間 気をつけたこと

津波からの避難場所までのルート ～津波の恐れがある場合～

市立小・中学校など 所要時間 気をつけたこと

避難所までのルート ～倒壊などにより自宅では生活が困難な場合～

私の家の避難所は..... 所要時間 気をつけたこと



自宅から一時避難場所・指定避難所等への避難ルートを書き込んでおくシート。
家族で事前に確認しておきましょう。